

# 待望の新庁舎が完成間近

## そして“ワクワク”する未来へ

益城町長 西村博則

**新**

年を迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつ申し上げます。

令和2年1月に国内で最初の新型コロナウイルス感染が確認されてから4年目を迎えるようとしていますが、弱毒化しつつも感染力において、その猛威がまだ収まる気配を見せません。さらには、世界情勢に伴う物価高騰が、皆さま方の家計を直撃していることに心を痛めております。

町といたしましては昨年、新型コロナウイルスの3〜5回目接種をはじめとした迅速な感染症対策や、経済的に困難な状況に陥っている方々などへの支援を重点的に進めてまいりました。本年も引き続き、状況に応じた適切な対応を実施してまいれる所存でございます。

平成28年熊本地震からの復旧・復興状況に目を向けますと、一番大きなトピックとして、本年3月に待望の役場新庁舎が完成いたします。町民の皆さまにおかれましては、今まで大変ご不便をお掛けしておりましたが、5月の連休明けから新庁舎で業務を開始する予定となっております。

「万が一の大地震の際にも災害対策本部機能を失わない、安全な免震構造」で、「夜には灯りがともし、町の未来を照らす灯台」のような新庁舎でございます。4階には展望スペースも設置しておりますので、ぜひご来庁ください。また、周辺には「震災記念公園」や「交通広場」も整備してまいりますので、こちらも楽しみにお待ちください。

また、「県道熊本高森線4車線化工事」や、木山地区の「益城中央被災市街地復興土地区画整理事業」は着実に進展しており、今後も事業が完了するまで県と連携しながら歩みを進めてまいります。

町の完全復興を成し遂げるために重要な「にぎわいづくり」におきましても、昨年4月にオープンいたしました「復興まちづくりセンター」や、同5月

にオープンし町内外からの多くのお客さまでにぎわう「マシカラリ」などに加えて、津森校区「潮井自然公園」では大型遊具の整備も近く完了いたします。

しかし、これらの施設を整備しただけでは完全復興とは言えません。完全復興には、多種多様な団体の皆さま、町民の皆さまのお力添えが必要です。「オール益城」の精神で町のにぎわいづくりにご協力いただければと思います。

結びになりますが、本年が町民の皆さまにとりまして、ワクワクする未来へとつながる一年になりますようお願い申し上げます、年頭のごあいさついたします。

